

# 公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



## 特集 多種目・多年代・多目的なスポーツサービス

- 4.5
- 2 トピックス 平成18年度関東甲信越静社会教育研究大会（新潟大会）開催
- 3 視点 これからも懸け橋として！
- 3 ひろば 忘れられたもの
- 6 実践記録シリーズ まちおこしグループが集う「芽多花の楽校」
- 7 サークル交流 ワンダーランドな私達（上越市）／パワーの源（田上町）
- 7 素顔拝見 杉本 修さん（阿賀野市）／北村 要人さん（津南町）



「山北町緑の少年団 野外活動」山北町公民館  
 表紙解説 この日の活動では、松林の開伐と皮むきに挑戦しました。

# 平成18年度関東甲信越静社会教育研究大会(新潟大会)開催

## テーマ「新たなまちづくりに向けた社会教育の創造」

平成18年度関東甲信越静社会教育研究大会は、去る9月7日(木)～8日(金)の二日間にわたり、新潟県社会教育委員連絡協議会主管の下、新潟市朱鷺メッセを会場に、1都10県より九二二名が参加して開催され、盛会裡に終了した。

題して、社会教育・生涯学習研究者の三浦清一郎先生から「ご自分の体験・実践に基づいた迫力あふれるお話で、参加者に大きな感銘を与えた。とくに○20世紀の生涯学習プログラムとの訣別、○熟年の「生きる力」の保持、保存、○弱い子どもに「生きる力」の「休得」等は、私どもに大きな反省を促すとともに、今後の方向づけをしていただいた。貴重な1時間20分にわたる実に効果的な提起であった。

15時からは6分科会に別れ、1分科会2例の話題提供がなされた後、質疑・研究協議が展開された。

「地域住民参画による生涯学習まちづくり推進と社会教育委員の役割」

「読書の森」づくりを日指して「読りむいのち」の実践は、提

「地域住民参画による生涯学習まちづくり推進と社会教育委員の役割」

「読書の森」づくりを日指して「読りむいのち」の実践は、提

初日の全体会では、開会行事の後基調講演が行われた。「地域の複合的課題と社会教育の役割」～子どもの元気、熟年の元気、女性の元気～と

15時からは6分科会に別れ、1分科会2例の話題提供がなされた後、質疑・研究協議が展開された。

「地域住民参画による生涯学習まちづくり推進と社会教育委員の役割」

「読書の森」づくりを日指して「読りむいのち」の実践は、提

「読書の森」づくりを日指して「読りむいのち」の実践は、提



尾嶋大会実行委員長あいさつ



第1分科会での発表



田中副委員長提案

### 大会アピール

本日ここに、社会教育関係者が集い「新たなまちづくりに向けた社会教育の創造」をテーマに平成18年度関東甲信越静社会教育研究大会を開催いたしました。

今、私たちは、「急速な少子・高齢化の進行」「家庭や地域の教育力の低下」「地域におけるコミュニティ意識の希薄化」「団塊世代の大量退職」など、様々な課題を抱えております。これら課題を解決し、新しい社会を創造していくためには、それぞれの地域特性を踏まえた特色あるまちづくりを推進していくことが強く求められています。

こうした中、本大会での講演や分科会討議を通じて、生涯学習社会の実現を目指した新たなまちづくりに向けて、社会教育の役割を再確認することができました。また、地域の将来を見据え、住民に密着したまちづくりを展望するための大きな契機とすることができました。

ここに本大会の成果を踏まえ、社会教育の一層の振興を図るため、本大会参加者の総意をもって、次のことに積極的に取り組むことを宣言します。

- 一 社会全体でこどもをはぐくむ環境づくりを進め、家庭の教育力向上を支援するとともに、家庭・学校・地域社会が一体となった青少年の健全育成に努めます。
- 一 住民の社会参加活動を促進し、男女共同参画社会の実現、人権・環境教育の充実、健康づくりの推進など現代的課題に積極的に取り組みます。
- 一 地域から学んだことを活かして、地域特性を踏まえた、住みやすく、文化の香りが漂う、活力のある「まちづくり」を推進します。

平成18年9月8日

平成18年度関東甲信越静社会教育研究大会新潟県大会

供者自らも実践参画したもので大変説得力のある内容だった。こういう面に公的助成を行って、茅野市行政当局の先見性も立派なものである。

二期開催地で知人の静岡県社教事務局長が、「いやあ大きなプレッシャーだな」と漏らしていたのが印象的だった。

第二日目、記念講演は「良寛に学ぶ」という演題で、精神科医からの視点で良寛像を述べられたが、今までの良寛

次期開催地で知人の静岡県社教事務局長が、「いやあ大きなプレッシャーだな」と漏らしていたのが印象的だった。

# 視点

## これからも 懸け橋として!

新潟市石山地区公民館利用団体協議会  
協議会だより「ふれあい」編集員

星 孝明



これまでとの違いは内容の一部に、従来は御法度とされていた一般大衆向けの娯楽的なものを取り入れたことであ

素人だけで編集を行い、年に2回発行している協議会だよりの「ふれあい」はユニークな機関紙である。公民館と協議会の懸け橋となつているこの機関紙は、これまで34号を発行しているが、2年前から少しずつ内容を

こうして機関紙を一般的なものに切り替えるには、それなりに勇氣と決断を要したが、それでもこの「ふれあい」を心待ちにしている人が居られることを知ったとき、安堵と共に次号への意欲が新たに湧いてくるのである。

それらは、風刺を利かせた落語風のものであったり、辛口の漫談的なものであったりするが、それに毎号家庭向けにレシビを掲載したりして、内容的にはバラエティーに富ませたものとなつてい

# HOT NEWS 掲示板

## 平成18年度新潟県公民館振興市町村長連盟総会開催


(出席16名 委任19名)

開会  
1 会長挨拶 (小千谷市長) 関 広一  
2 来賓祝辞 新潟県教育長 武藤 克己 様  
(代理教育次長 高井 盛雄 様)  
3 新潟県公民館連合会長 三保恵美子 様  
来賓 新潟県市長会事務局長 石田 英紀 様

4 議長選出  
5 協議  
第1号議案 平成17年度会務報告  
第2号議案 平成17年度歳入歳出決算について  
監査報告 十日町市  
第3号議案 役員補充について  
第4号議案 平成18年度の重点目標並びに事業計画について  
第5号議案 平成18年度歳入歳出予算について  
第6号議案 第57回新潟県公民館大会の開催について  
第7号議案 新潟県公民館振興市町村長連盟の今後のあり方について

6 その他  
公民館活動の紹介  
事例発表 「ボランティアの育成と支援」  
上越市立公民館 主任 池田 謙治 様

閉会



# ひろば

## 忘れられたもの

上越市公民館運営審議会委員 樋口 嘉和

「いつでも、どこでも、だれでも、…」生涯学習の拠点としての公民館活動の原点を表す言葉として、良く耳にします。日本郵便の父・前島密が明治4年、郵便事業を創業した基本理念と全く同じです。

現在の日本の社会は、「もったいない」という心が最も欠けているといわれる。食料の自給率が数十%なのに、飽食の果てに大量の廃棄物を出し、生活の利便性や自己の欲求を満たすことに汲々としている社会である。

経済至上主義的な霧に覆われた今の日本は、本来の日本「らしくない」社会である。

若い人達が住まない過疎地域が放置され、増大して

いる。

本当に大切な、緑豊かな国土であるのに。クヌギやナラが枯れ、藤・くずなどの薫類が繁茂し森林が崩壊している。

棚田が荒れ、廃屋が草に埋もれ、自然災害に弱い故郷が広がっている。

国費を使わない「国民のためのインフラ、郵政事業」も市場原理主義の前に風前の灯である。地方が豊かになり、若人の声がたくさん聞こえる山村の姿が公民館事業の発展にも必要である。



# 的なスポーツサービズ

## スポーツ環境づくり



市民登山



ウォータースライダー

### 〈総合体育館事業〉

- ①フットサル大会 (4月)
- ②体力測定会 (春夏秋冬4回)
- ③初心者テニス教室 (5～6月)
- ④健康づくり教室 (春・秋の2期)
- ⑤市民登山 (6月)
- ⑥少年野球大会 (7月)
- ⑦バスケットボール大会 [一般] (11月)
- ⑧紅葉ウォーキング (11月)
- ⑨スポーツフェスタ (12月)
- ⑩バレーボール大会 (12月)
- ⑪ミニバスケットボール大会 (12月)
- ⑫バドミントン大会 (2月)
- ⑬四市北蒲卓球大会 (2月)
- ⑭ソフトテニス大会 (3月)
- ⑮バスケットボール大会 [中学生] (3月)



少年野球大会



体力測定会



小学生水泳教室



成人水泳教室

### 〈遊水館事業〉

- ①第1期水泳教室 (4～6月)
- ②第2期水泳教室 (9～12月)
- ③第3期水泳教室 (1～3月)
- ④幼児水泳教室 (6～12月)
- ⑤開館記念日企画事業 (4月)
- ⑥体育の日企画事業 (10月)



アクアエクササイズ



健康づくり教室

### 3 おわりに

総合型スポーツクラブとして6年が経過、会員の皆様方のご理解・ご協力をいただき、自主財源・自主運営を目指した活動を展開しています。

また、NPO法人として社会体育施設の維持管理・企画事業を受託して2年が経過、公的事業の適正運営と責任の重さを肌で感じております。

今後、会員確保による安定経営、会員等による教室・イベント等の自主運営などに努め、多様なニーズの具現化によってスポーツ環境づくりが推進され、活力に満ちたコミュニティ形成につながることを願っています。

# 特集

## 多種目・多年代・多目的

—地域と協働した

特定非営利活動法人 総合型地域スポーツクラブ ハビスカとよさか  
企画主任 佐藤 忍

### 1 はじめに

春は菜の花、夏のオニバス、秋のヨシ原、冬のオオヒシクイなど、四季の変化に富み日本の自然百選、全国水の郷百選に選定された潟湖の郷「福島潟」が存する阿賀野川左岸、人口5万余の新潟市豊栄地区がNPO法人「ハビスカとよさか」の主たる活動エリアです。

当法人は、平成13年9月に地域会員を母体とした総合型地域スポーツクラブ「ハビスカとよさか」(Happy Sports & Culture Club)として発足。翌14年1月にはNPO法人として発足。旧豊栄市社会体育施設の維持管理並びに各種スポーツ事業の受託団体として総合型クラブの活動拠点の確保を図り、会員のみならず広く市民の皆様、多種目、多年代、多目的にわたる継続的なスポーツ・健康づくりのNPO法人として歩んでいます。

### 2 多様なスポーツサービス

潤いのある豊かな街づくりを総合型地域スポーツクラブ「ハビスカとよさか」の活動理念として、「いつでも、どこでも、だれとでも」気軽にスポーツ・文化活動が実践できるよう、地域に根ざしたスポーツ環境づくりに努めています。

また、地域行政との協働の下、クラブ事業と受託事業の整合性を図りながら、会員・利用者の相互協力によって主体的な運営に心掛け、多様なプログラムサービスに努めています。



民謡流しへ参加



ソフトバレー



硬式野球

#### 〈総合型クラブ事業〉

- ファミリースポーツ (毎週土曜)  
子どもからシニアまでが家族で参加。
- エンジョイゲーム (毎週月・水・土)  
楽しみながら技術の向上を目指す。
- ヘルシーエクササイズ (水・金)  
健康の保持増進に役立つ運動プログラムを提供。
- チャレンジスポーツ (水・金・土)  
育成段階から技術習得を目指す。
- その他 (不定期)  
PTA行事や地域に出張する出前事業や、会員・地域住民との親睦を深める大会・イベントを開催。



太極拳



ミニバス

# 実践記録 103 シリーズ

第57回新潟県公民館大会  
事例報告2から



## まちおこしグループが集う「芽多花の楽校」

信濃川テクノ・アカデミー 校長(芽多花の楽校々長) 谷井 靖夫

### 1. 芽多花の楽校とは

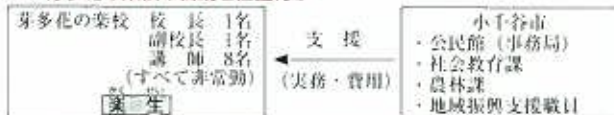
芽多花の楽校は、  
小千谷にある色々なまちおこしグループが、  
それぞれの活動をする上で、  
役に立つ情報交換や、学習をすること

を目的としています。  
芽多花の楽校は、小千谷市公民館の提唱で発足し、その支援を受けながら運営されています。  
芽多花の楽校に集う小千谷市のまちおこしグループは、それぞれが様々な目的を持って活動しています。地場農産物の生産・販売や、安全・安心の食品を提供するグループから、史跡保存や環境保護を目的に活動するグループまで、どんな形であれ、自分たちの活動が、何らかの形で地域の活性化に繋がることを願っているグループです。  
芽多花の楽校の特徴は、その自由さにあります。校則はありません、楽校の授業出席は自由です。授業料は、特別の行事がある時にその都度徴収します。  
その名の通り、楽しみながら知識を得て、それを、それぞれ自分たちのグループの活動に役立てて貰うことを目的とした楽校です。

### 2. 生い立ち

平成15年6月、当時の小千谷市公民館長谷井一氏が発起人となり、市内のまちおこしグループに呼びかけ、意見交換会「元気あるまちづくりを、ともにめざして」を開催しました。  
この時に呼びかけた団体は、  
①地場農産物を販売する団体 ②環境保護活動団体  
③食を通じた都市との交流団体 ④その他特色ある活動団体  
⑤地域活性化を目的としている団体  
等でした。  
平成15年9月、この集まりを「芽多花の楽校」と名付けました。勢いの良い芽がたくさん出て花を咲かせる草木や、おう盛な勢いのメダカのイメージを、まちおこしグループの元気を活動に重ね合わせています。

### 3. 芽多花の楽校の構成と位置付け



楽 生	活 動 の 内 容
塾友倶楽部	川井山薬王園→山薬の生産販売
あじさい村育成会	あじさい公園の造成、あじさい祭りなど(高齢者多数)
スローライフ小千谷	都市交流、「食」をテーマにまちづくり
まごころ市	野菜生産直売(高齢者大多数)
真人北部振興会	津連裡等縄文製品の製造販売
キラリ真人	都市との交流、農産物の販売
まっとマップ隊	真人地域の自然や歴史を小学生と学習
兩山城狼煙乃会	遠隔市町村等と狼煙の発信、地域の山奥の資源を活用した地域づくり
ライフワーク池が原	スノーランド(雪蔵)の管理、スノーフェスティバルなど
グリーンライフ小千谷	山本山高原そば、ジャガイモ生産と販売(山本山高原そば 雪蔵の里)
山谷棚田グループ10	古代米の生産販売
産直緑のお店	JA越後小千谷田本所で農産物の販売(高齢者大多数)
三仏生住民	減農薬栽培の農産物販売、立教大学留学生との交流
片貝公民館山河	合町団を結成し、地域づくり
片貝緑公園三沢	環境保護活動
リサイクル片貝	月1回、地域でリサイクル活動
ふれあいネットワーク東山	トリムウォーキング、ふれあいコンサートの開催、山薬市
金倉山そば道場	そば打ち、開生会にそば販売(高齢者多数)
ミニ画綱の会	罌牛グッズ製作販売(高齢者大多数)
千本桜の会	桜の植樹で山本山を桜の名所に
小千谷北越辰史跡復興支援の会	中越大地震で損なわれた辰辰戦役史跡の復元活動を通して、福島県、山口県、鹿児島県等、ゆかりの地域との交流活動

浦郷史跡保存会	辰辰戦役史跡を活かしたまちづくり
農園ビギン	地元農産物の加工と販売(いもプリン等)
若柳未来懇談会	中山間地における村おこし
真人健康食品生産組合	地元産大豆100%の豆腐製造販売
五辺転作組合	転作田を活用したそば粉製造販売(高齢者多数)
小千谷移ブランド組合	小千谷移を建材として活用
小千谷元気プロジェクト	地元物産を通して都市との交流
以上の他にも、市内の企業や公共団体等があります	

### 4. 主な活動経過

- ◆学習会 9回 延べ参加人数 331人  
テーマ  
・地域素材を活かしたまちづくり  
・地域通貨の活用  
・安全・安心の地産地消  
・被災復興のための今後のまちづくり  
・都市との交流、情報発信  
・地域を元気にするコミュニティビジネス等
- ◆市外研修 2回 延べ参加人数 69人  
・農村都市交流(クラインガルテン)の視察(群馬県甘楽町、長野県立科町)  
・岩船地域で展開されているコミュニティビジネスの先進地視察(新潟県村上市)
- ◆芽多花の楽校ホームページの作成  
・参加27団体の紹介

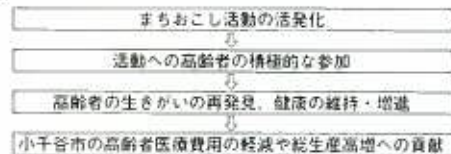
芽多花の楽校活動は、小千谷市からの委託事業であり、委託料が予算化されています。また、いろいろな行事は、小千谷市公民館や市関係部署の方々の実務提供により準備・実施されています。  
芽多花の楽校発足から僅か1年の後、平成16年10月に大地震が起き、まずはそれぞれの生活安定化が優先であるとして、約1年半の間活動を中断しなければならなかったのは残念でした。  
復旧・復興も進み、生活環境が次第に落ち着きを取り戻しつつある中、芽多花の楽校の活動を再び活性化させたいと思っています。

### 5. まちおこしグループの主な活動成果

- ◆NPO法人の設立  
・グリーンライフ小千谷  
・スローライフ小千谷  
・小千谷元気プロジェクト
- ◆都市との交流  
・東京(杉並区、板橋区、練馬区)や新潟市(古町)での行事参加・交流、小千谷物産販売
- ◆特色のある物産の開発や販売努力

### 6. 芽多花の楽校が今後目指したいこと

芽多花の楽校生たちの手によるまちおこし活動が活性化すれば、これからの小千谷市行政で大きな課題となる高齢化社会施策の一助として役立つことが出来るのではないかと思います。  
つまり、



の連鎖を、私達の回りでも実現出来るのではないのでしょうか。  
小千谷市の65歳以上の人口、つまり高齢者人口は約1万人で、全市民の4人に1人の割合です。また、年間の老人医療費は、高齢者1人平均約15万円、総額では約17億円にも上ります(平成16年小千谷市統計)。  
「葉っぱビジネス」で、たくさん的高齢者がコミュニティビジネスに積極的に携わっているあの有名な徳島県上勝町では、高齢者1人平均の医療費が、26万円とこのことですから、地域おこし活動が高齢者の健康を守る上でも大きな効果があることがうかがい知れます。  
仮に、小千谷の高齢者の医療費が26万円まで減ったら、小千谷市全体で、老人医療費が年間20億円近く少なくて済むと言うことになります。  
小千谷には、自然に恵まれた豊かな田園が広がっていて、それを貴重な資源として活かす方法も限り無くあるように思われます。例えば、高齢者の人達が、自分たちの手で安全・安心の食品を生産し、それを通して都市の人達と交流を深めて行くようなコミュニティビジネスに参加することも出来るでしょう。芽多花の楽校が持つ基本理念の一つである「安全・安心の食を通しての農都共生」の実現にもなります。  
人口の四分の一の高齢者が、例えばかくであっても、何かを生産する仕事に携われば、小千谷市の経済力を高める面からも貢献出来るはずです。  
芽多花の楽校の小川が、将来の活力ある小千谷のまちづくりに向けた大きな流れとして広がって行くことを願いながら、活動を続けていきたいと思っています。

### ワンダーランドな私達

読み聞かせサークル ワンダーランド

上越市頸城区の図書館で、毎月第一、第三土曜日に行われる「えほんのじかん」で読み聞かせのボランティアをしています。

メンバーは、二十代から上はお孫さんのいる方まで、まさにワンダーランドな顔ぶれで楽しく活動しています。

仕事優先、家庭優先で大いに結構。無理をしないで、休むことなく、たとえ子どもが一人もこなくても、その時間には、必ずだれかいるという方針で続けてきました。



今では、毎回来てくれる方もいて、子どもたちやお母さん達との交流も楽しいです。

お近くにお住まいの方は、ぜひ遊びに来てください。メンバーも随時募集しています。

読み聞かせサークル  
ワンダーランド

小山あゆみ 記



### パワーの源

よさこい Go魔童

「踊れることが幸せ。観客がすごく喜んでくれる。こっちもまた元気がもらえるんです。」そう語るのは、護摩堂山で知られる田上町の誇るべきよさこいチーム、Go魔童。



田上 団九郎まつり

童。小さな花が集まる紫陽花のように、メンバーの心一つに頑張っています。

Q よさこいの良さを聞かせてください。

A 何より踊るたびにパワーがもらえる！よさこいこそが私達のサプリアね。それに、イベントで他のサークルと交流できるのも楽しみ。見る人に元気を与え、そして私達も元気になる、そういうチームになりたいです！

Q 最高の喜びが訪れる瞬間は？

A 踊った後。感極まって涙あふれることも。踊りつて最高！……対談はまだまだ続く……

Go魔童 中沢みゆき 記  
田上町公民館 小柳加奈子 記

昨年4月から水原公民館に勤務。着任早々に公民館施設の修繕やアスベスト対策やらで、年季の入った施設の管理運営に追まわられています。

今まで選挙や税務・国保事務などお堅い部署を転々とし、選挙の神様とまでいわれた事務屋の世界から社会教育畑に初めて来ました。といっても昔スキークラブに所属し、子ども達や婦人スキー教室を開催して指導



阿賀野市水原公民館

副館長 杉本 修さん

するなど、すでに社会教育活動の実践者です。今年度も新しく介護予防教室を開催するなど地域課題にも積極的に取り組んでいます。

これからも文化祭事業等で多忙な毎日が続きますが、腐食が進んでいる公民館の受水層を改修しなければならず、次から次へと押し寄せる施設修繕の波に押し流されないようがんばっています。

(阿賀野市中央公民館館長 見原健司 記)

## 素顔 拝見



津南町教育委員会 生涯学習班

北村 要人さん

「キタムラ・ヨウジンと読むのかねえ…楽しみだねえ」職員数人とひそひそ話の3月半ば。

「オーッ！ながーいっ！！」楽しみにしていた新採用「キタムラ・ヨウジン君」、大空にすくと伸びたその姿を公民館に迎えた4月3日(月曜日)。

あれからすでに6ヶ月…今では公民館の顔になってくれています。

身長186cm、中学高校大学とバスケットボール一筋？の北村君、社会人になって、住民の皆さんと接する機会が多い公民館に配属され、そのジャンプ力を武器に、公民館においてになる方々に笑顔で対応しております。

青少年教育、視聴覚機材管理、

IT講習等々、役割分担はありますが、これからの津南町公民館を担ってもらう我等の宝・北村君には、オールマイティーに何でもわかる北村君になっていただくべく、まわりの職員一同、声をかけておる今日この頃です。

津南においての際は、津南町陣場下にあります文化センター2階事務室をのぞいてみてください。好青年、北村君が皆さんをお待ちしております。

あっ！！大切なことを忘れそうでした…キタムラ・カナメ君です。

「かなめくん」と呼んでやってください。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

(津南町教育委員会生涯学習班 板場麻実 記)

標題も内容も豊かで、新鮮な感じを読み手に与えてくれる冊子です。

中央大学文学部教育学研究室の方々が、ご退職を迎えられた島田修一先生、奥田泰弘先生、金子茂先生をお送りすることから、企画・編集されたものです。

第一部では、ご三人の先生方のお言葉、思い出、略歴と研究のご業績。第二部では、



ご三人の先生を送る言葉を、五人の方が門下生の立場で述べておられます。

第三部ではそれぞれ自由に、出会いから学び、実践にいた

るまで、OB、学生の立場で綴られております。

その中で印象に残った言葉は、奥田泰弘先生の「だまされたい人間」ということを何人かの方々が書き綴っておられることです。企業、教職、団体運営に携わるそれぞれの方の胸の中に深く刻み込まれている、という感じを受けました。

06年2月刊、問合せ・電話〇四二六・七四・三八四八

**あ と が き**

10年振りに新潟市で開催された関係プロ社会教育研究会、一日目だけの大会取材の予定でしたが、講師の三浦清一郎先生の熱情に引き込まれ、つい二日間とも取材してしまいました。

(鈴木 記)

恵贈資料紹介  
多摩の緑 ひと 育みて

中央大学文学部教育学研究室

Net work ネットワーク

「平成18年度中越地区公民館長・主事・公運審等研修会」開催案内

- 趣旨 (省略)
- 主題 「公民館60年——その原点と歴史に学ぶ」
- 主催 中越地区公民館連絡協議会 新潟県公民館連合会
- 主管 十日町市公民館 津南町公民館
- 期日 平成18年11月17日(金)
- 会場 十日町市中央公民館(市民会館)
- 日程

12:30 13:00 13:15 14:20 14:30 16:00 16:05

受付	開会式	事例発表	休憩	記念講演	閉会
----	-----	------	----	------	----

- 受付 12:30~13:00  
開会式 13:00~13:15  
開会の挨拶 中越地区公民館連絡協議会会長  
新潟県公民館連合会会長  
来賓祝辞 中越教育事務所社会教育課長  
歓迎の挨拶 十日町市教育委員会教育長
- 事例発表 13:15~14:20  
休憩 14:20~14:30  
記念講演 14:30~16:00  
演題 「21世紀の公民館像」  
講師 小林 文人 先生  
日本公民館学会会長、東京学芸大学名誉教授、元和光大学教授、東京・沖縄・東アジア社会教育研究会(TOAFaec)代表。
- 閉会 16:00~16:05  
閉会の挨拶 津南町教育委員会教育長
- 8 参加費 1人500円  
当日受付で、市町村単位で納入してください。
- 9 申込方法 平成18年11月10日(金)までに、別紙申込書により市町村単位でお申し込みください。  
できるだけMailでお願いいたします。
- 10 申込み・問合せ先  
〒948-0022 十日町市学校町1丁目 十日町市中央公民館  
担当: 斎本・宮澤  
TEL (025)757-5011 FAX (025)757-5010  
E-Mail: th-edu-kominkan@city.tokamachi.niigata.jp

お知らせ

event information

社会全体で子どもをはぐくむ運動フォーラムを開催

地域ぐるみで子どもをはぐくむ環境づくりを目指し、地域のネットワーク化をテーマに、「社会全体で子どもをはぐくむ運動フォーラム」を開催します。時間は予定です。

- 中越地域 10月29日(日)9:30~16:00  
会場: 魚沼市中央公民館(魚沼市堀之内130)  
内容: 基調講演(講師: 秋津コミュニティ顧問 岸裕司様)、ポスターセッション、研究協議会、子ども広場  
詳しくは、中越教育事務所社会教育課(TEL 0258-38-2652)へ
- 左近地域 11月19日(日)13:00~16:30  
会場: アミューズメント佐渡(佐渡市中原234-1)  
内容: 基調講演(講師: 茨城大学 長谷川幸介様)、事例発表、ポスターセッション  
詳しくは、下越教育事務所佐渡出張所(TEL 0259-74-4205)へ
- 下越地域 12月3日(日)10:00~16:00  
会場: 村上市民ふれあいセンター(村上市大字岩船字榎清水3270)  
内容: ポスターセッション(パネル展示)、基調講演(講師: 大学教授)、研究協議会  
詳しくは、下越教育事務所社会教育課(TEL 025-231-8361)へ
- 上越地域 12月9日(土)10:00~15:00  
会場: 上越市市民プラザ(上越市土橋1914-3)  
内容: ポスター展示による活動紹介、親子対象活動紹介、研究協議会、講演会(講師: 徳島大学 大日向雅美様)  
詳しくは、上越教育事務所社会教育課(TEL 025-526-9377)へ